

「中期経営計画徹底会」を開催

2013年5月22日
人づくり推進部
広報部

5月17日、高橋副社長による「中期経営計画徹底会」を本社で開催。その模様を国内29拠点に同時中継しました。



チャレンジを呼び掛ける高橋さん(副社長)



高橋さんの話に耳を傾ける社員の皆さん

2013年度当期純利益の黒字化へ

5月14日に、2012年度の決算を発表しましたが、「2012年度下期の営業黒字化」については、目標以上の営業利益を上げることができました。皆さんの並々ならぬ頑張りに、心から感謝いたします。

次の目標は、「2013年度当期純利益の黒字化」です。これを達成することを前提に、金融機関から1500億円の追加融資枠の内諾をもらっています。当社はこの2年間で9000億円超の赤字を計上していますが、それをプラスにしなければなりません。計画の利益額はわずか50億で、ちょっとした為替の変動などで下振れするリスクがあります。そこで、大変心苦しいのですが、現在実施中の人件費削減対策をもう少し継続させてください。

経営理念・経営信条の原点に戻りましょう

今のシャープは、上司が部下に一方的に指示し、それに失敗すれば減点する。その対応策として、自分が責任を負わなくてすむように、人に仕事を押しつけるようなことが横行しています。経営信条にある「進んで取り組み困難に」が実行されていません。

経営理念・経営信条とは、逆のことが行われています。世間では、これを大企業病というのかもしれませんが、これを実行しているのは、一部の社員だけではなく全てのレイヤー(階層)なのです。

JALは、再建のため“JALフィロソフィ”をつくりました。そして、これを活かして、あっという間に再生を果たしました。一人ひとりの意識を変えるために、価値観を共有し、全員がそれに合わせて行動することで、大きな効果を上げたのです。

シャープには、誇るべき経営理念・経営信条があります。これを単に唱えるのではなく、内容に則して行動してください。また、時には何人かで討議してください。これができるようになれば、会社はすぐに回復すると思います。経営理念・経営信条は創業61年目にあたる、1973年の正月に発表されました。前年の還暦（60年）の年に、当時の佐伯社長、桂経営企画室長を中心につくったものです。発表された当時の社内報「窓」には、これをテーマにした対談や解説が載っていました。それから40年経ちましたが、皆でもう一度この原点に戻りましょう。

自信を取り戻し、しっかりとした判断基準を持ち、チャレンジして欲しい

まず、皆さんには自信を取り戻して欲しい。昨年から世界で商談をしています。彼らはシャープにすごく期待をしています。シャープの技術は、世界のリーディングカンパニーから高く評価されています。下を向かずに、自信を取り戻してください。

次に、しっかりした判断基準を持ってください。「会社のために何がいいか」、という判断基準は間違いです。「会社のため」は、立場によって変わります。人が変わると判断も変わるような基準は使えません。「人として何が正しいか」、「社会のために何が正しいか」に切り替えてください。そうすれば、社会が支援してくれます。一緒にやりたい人が出てきます。だから、回復に弾みがつくのです。「社会の人々が存在して欲しいと思う会社」に生まれ変わるのです。

そして、チャレンジ精神を持って行動してください。特に上司は自らが先頭に立ってください。（野球に例えると）ウェイトリングサークルの中で素振りばかりするのではなく、率先してバッターボックスに立って下さい。上司が部下からの提案に対して、あれは確認したのかと何度も聞くのも、ウェイトリングサークルの素振りと同じです。上司は部下からの提案に対して決断しない方が楽ですが、それでは前に進みません。仕事のスピードを上げていくことを重視して、失敗を恐れず、正しい判断基準をもって決断し、チャレンジしてください。

「さん付け運動」に取り組みましょう

本日、深堀さんが「副社長の高橋さん」と紹介しましたが、「さん」付けにすることには大きな意味があります。管理職で、若い社員を呼び捨てにしたり、「君」付けをする人を見かけます。「さん」付けは、敬意を込めた呼び方です。自分より若い人にも敬意を払うことで、若い人は無用なプレッシャーから解放され、伸び伸びと仕事ができるのです。

中期経営計画を実行するためには、本日は話したように会社を変えることが必要です。皆で、「社会の人々が存在して欲しいと思う会社」を目指しましょう。



高橋さんは「前を向いていきましょう！」と語りかけながら退席し、出席者から自然に拍手がわき起こりました。

I G Z O※¹液晶ディスプレイ搭載のスマートフォンが、S I D※²主催の 2013年「Display of the Year Award」金賞を受賞※³

2013年5月23日
広報部

ディスプレイ業界の学会であるS I D※²が主催し、優れた成果を表彰する「Display Industry Awards」※⁴にて、I G Z O※¹液晶ディスプレイ搭載スマートフォン「SH-02E」（株式会社NTTドコモより発売）が2013年「Display of the Year Award」部門の金賞を受賞※³しました。

斬新で優れたディスプレイを搭載した製品を選出する「Display of the Year Award」で金賞を受賞した当社製スマートフォン「SH-02E」は、充電を気にせず2日間※⁵安心して使うことができるI G Z O液晶ディスプレイを搭載しており、その省エネ性能が高く評価されました。

また、2013年「Display Component of the Year Award」部門では、液晶テレビAQUOS X L9ラインに採用されているモスアイ技術※⁶が、銀賞を受賞しました。



(中央) 金賞の楯を受け取るディスプレイデバイス開発本部長 桶谷 大亥
(右) 株式会社半導体エネルギー研究所 山崎社長



金賞の楯

- ※¹ I G Z O液晶ディスプレイは、株式会社半導体エネルギー研究所との共同開発により量産化したものです。
- ※² The Society for Information Display.
- ※³ 株式会社半導体エネルギー研究所と共同受賞。
- ※⁴ 「Display Industry Awards」は、S I Dが1995年から毎年実施しているディスプレイ業界で権威のある賞の1つ。次の3つの部門で金賞と銀賞を選出し表彰。
 - (1) 「Display of the Year Award」（製品部門）
 - (2) 「Display Application of the Year Award」（アプリケーション部門）
 - (3) 「Display Component of the Year Award」（デバイス・部材部門）
- ※⁵ 当社で実際の使用状況（メールの送受信、アプリの使用など）を想定し、測定したものです。アプリの動作やネットワーク環境により、大きく変動する場合があります。
- ※⁶ モスアイは、大日本印刷株式会社の商標または登録商標です。

スマートフォン・タブレット 新製品説明会を開催

2013年5月23日
広報部

5月23日、東京 シーバンスS館、大阪 本社で、スマートフォン・タブレット 新製品説明会を開催しました。

冒頭、通信システム事業統轄 兼 通信システム事業本部長 長谷川常務より、2012年度上期は部品の供給不足などから低迷したものの、下期にはIGZO技術搭載モデルを投入し、シェア2位まで回復したことを説明。2013年度は国内事業に集中し、挽回を図っていくことを表明しました。

2013年度上期は、フルHD IGZO技術搭載モデルの商品化、3日間使えるIGZO技術搭載モデルの商品化、業界初フルセグTV搭載の商品化に重点的に取り組んでいくことを訴求しました。2014年度には全ての当社製スマートフォン・タブレットへのIGZO技術搭載モデルを目指していくことを宣言しました。

続いて通信システム事業本部 新井副本部長から、新製品のラインアップを紹介。各キャリア向け端末の主な特長と開発思想“Feel Logic”を説明すると共に、五感で感じるプレミアムな操作感をプロモーションビデオで体感いただきました。

展示、デモスペースでは、IGZOを搭載したスマートフォン及びタブレットを中心に、端末のデモを実施。来場者から高い関心が寄せられました。



通信システム事業統轄 兼
通信システム事業本部長 長谷川常務



タッチアンドトライコーナー



2013年夏の新製品全7機種

発表会に出席いただいた記者からは、「IGZOを軸に日本メーカーとして勝ち抜いて欲しい」「IGZOは日本が誇る技術だと感じているユーザーも多く、省エネだけでなく、フルHDの画質も鮮やかで完成度が高い」などの感想をいただきました。

高さ日本一※¹の超高層複合ビル「あべのハルカス※²」にデジタルサイネージシステムを大量納入

2013年6月10日
広報部

シャープは、大阪の新しいランドマーク「あべのハルカス」（大阪市阿倍野区）へ、大画面の70V型や狭額縁の60V型液晶ディスプレイを複数用いたマルチディスプレイなどのデジタルサイネージシステムの納入を開始しました。

まず、本年6月13日に一部開業した近鉄百貨店「あべのハルカス近鉄本店タワー館」の「ウエルカムガレリア」（2階）に180V型相当（60V型×9台）のマルチディスプレイが設置される他、駅コンコースやエレベーターホールなど、今後順次オープンする各施設に計100台以上のデジタルサイネージ用ディスプレイが設置される予定です。

配信するコンテンツは、最新のシステムにより、内容や時間帯および表示するディスプレイを詳細に設定し、イベントやセールのお知らせなど来場者に向けた効果的な情報提供に活用されます。

■ 「あべのハルカス」向けデジタルサイネージシステム

納入システム	<ul style="list-style-type: none">・ コンテンツ配信／表示システム「e-Signage Pro WEBサーバー版」*・ 70V型液晶ディスプレイ <PN-E702×約50台>・ 60V型液晶ディスプレイ <PN-V601×約25台>・ その他液晶ディスプレイ<30台以上>
運用開始	2013年6月上旬以降順次

*コンテンツ配信/表示システムにより、表示用液晶ディスプレイをコントロール



「あべのハルカス近鉄本店タワー館」2階「ウエルカムガレリア」



「大阪阿部野橋駅」1階コンコース

※¹ 2013年6月10日現在。（近畿日本鉄道株式会社調べ）

※² 近畿日本鉄道株式会社が、大阪市阿倍野区に建設中の展望台・ホテル・オフィス・美術館・百貨店・駅からなる超高層複合ビル。2014年春グランドオープン予定。

高橋副社長がSECを訪問

2013年6月12日
広報部

2013年6月11日、高橋副社長がSEC（Sharp Electronics Corporation, 米国ニュージャージー州）を訪問し、次期社長に就任することの報告と、現在の会社が置かれている状況、またご自身の考えについて語りました。



SEC従業員に語りかける高橋さん（副社長）

冒頭、「今のシャープの文化は、どこかおかしくなってしまうている」、「創業者 早川徳次より受け継いだ創業の精神以外のすべてを変える必要がある。多くの人が指示待ちになり、会社全体を見渡してもチャレンジする精神が少なくなってしまうている」との発言がありました。そこで、これからは全員がリスクや失敗を恐れずチャレンジすること、すぐに行動を起こすことを要望しました。

「『人として何が正しいか』を軸に判断すればブレない。自部門にとって何が良いか、会社にとって何が良いかという判断基準だと、人によって観点や価値観が違うため、どうしてもブレてしまうので良くない」と語りました。

今後の会社の方向性について、「私は、シャープを真のグローバル企業にしたい」と訴えかけました。グローバル企業になるためには各地域での成功が重要であり、地域ごとの需要は、その地域の現地人しか完全に理解できないため、海外拠点は現地人が主導して事業を推進し、日本人スタッフはそのサポートや本社との架け橋という位置づけで携わっていく旨を説明しました。

また、最近アメリカのエクセレント・カンパニーを数社訪問した際のエピソードも紹介されました。「各社はいきなり最初から企業のトップが打合せに登場し、その場で判断する。とてもスピードが早い。また、彼らは資料や報告書は必要としない。一方、当社はたくさんの資料がないと、何かを決断できない仕組みになってしまっている。このような古い日本企業の体質から、真のグローバル企業に生まれ変わらないといけない」と語りました。

最後に、「一年後に、またSECを訪れることを約束します。その時には、みなさんがSECのために、そしてグローバルシャープのために、すごいチャレンジをし、大きなアクションを取り、素晴らしい成功を収めている姿を目の当たりにできることを期待しています。皆さんと一緒に取り組み、社会のため、会社のため、そして皆さん一人一人のための成功を収めることを信じています」と呼びかけ、会場の従業員からは多くの拍手がおくられました。

新規事業分野への取り組みに関する説明会を開催

2013年6月13日
新規事業推進本部
広報部

6月10日、報道関係者向けに新規事業分野への取り組みに関する説明会を開催しました。



会場の模様



技術担当 兼
新規事業推進本部長 水嶋副社長

技術担当 兼 新規事業推進本部長の水嶋副社長より、当社のモノ作りの強みをてこに、既存事業の成長と戦略的アライアンスを活用した5つの新規事業領域「ヘルスケア・医療」「ロボティクス・エンジニアリング」「スマートホーム・モビリティ」「食/水/空気の安心安全」「教育」と、「革新商品」の創出について説明しました。

「ヘルスケア・医療」では、高度なセンシング技術を核とした初期診断支援事業や、スマートフォンやタブレット端末を活用した健康管理・ヘルスケア事業を目指します。

「ロボティクス・エンジニアリング」では、当社が保有するコア技術を活用し、清掃ロボットや介護・福祉ロボットなどの製品化に向けて取り組んでいます。

「スマートホーム・モビリティ」では、家庭内の各種機器間のネットワーク化により、最適エネルギー制御はもとより、安心、安全で快適な生活の実現に貢献してまいります。

「食/水/空気の安心安全」では植物工場や環境センサー等の当社特長技術により、安心かつ安全な生活環境の提供に向けて推進してまいります。

「教育」では、全国の小中学校において累計8000校へ導入した文教ソリューションの実績をもとに、子供たちが主体的に取り組める学習環境の提供に向けて、さまざまな事業開発に取り組んでまいります。

また、「革新商品」の創出に向けて、ユーザーの生活やニーズに対応した「フィット戦略」により、魅力ある商品を創出し、ブランド価値を高め、事業の拡大に貢献してまいります。

当社は持続的な成長に向けて、液晶や半導体で培った技術などの強みをベースに、幅広い業種の企業との協業を積極的に推進し、販路の拡大や技術のシナジー効果を生み出すことを目指します。こうした新規事業の取り組みを推進することで、「社内のモノづくり風土を改革し、シャープらしいモノづくりの復活にも挑戦したい」と決意を述べました。



タンパク質分析装置



初期診断医療事業

アセアン事業説明会を開催

2013年6月13日
マレーシアの販売会社SEM
広報部

2013年6月13日、大阪にてアセアン事業説明会を開催しました。



アジア・パシフィック代表
藤本常務



会場の模様

アジア・パシフィック代表の藤本常務より、アセアン市況の概要および当社の事業拡大の推移とこれまでの取り組みについて紹介しました。

アセアンでは、地域の特性に合わせた商品展開をはじめ、営業・サービス体制など組織の強化を図り、インドネシアでは2012年にテレビ・冷蔵庫・洗濯機はNo. 1、エアコンはNo. 2のシェア（※当社調べ）を達成しています。

今後、地域完結型の事業体制と活力ある組織体の構築、ならびに同地域でトップクラスのブランドとなることを目標とした事業展開を推進し、2016年度にはアセアン地域での売上高3000億円を目指してまいります。

会場ではアセアン地域に展開しているローカルフィット商品の数々を展示しました。各地域の嗜好に応じた商品展開をご覧いただき、来場した記者の方々の高い関心を集めていました。



洗濯機



炊飯機